



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：第5次五カ年計画

(28、31日付現地各紙)

1. 第5次五カ年計画法案総則の可決

(1) 10月27日、国会特別調整委員会による第5次五カ年計画法案総則の審議が終了し、国会本会議での審議が開始された。その際、アフマディーネジャード大統領は、同委員会メンバーとの間で会談を行い、同委員会および国会議員がこの法案の審議に関し政府と適切に協力していることに謝意を表した（28日付スィヤーサテ・ルーズ紙）。

(2) 10月30日の国会本会議において、第5次五カ年計画法案の総則が、賛成131票、反対44票、棄権17票で可決された。

(3) 本法案の細則審議は、本法案を扱う国会特別調整委員会の報告書に基づいて行われ、(当初提出された)政府案(の内容)に戻すための国会議員による提案、各条文の全文あるいは部分的削除および修正提案についても条文ごとに審議される(31日付イラン紙)

2. 総則の採択に当たっての本法案反対派議員の発言(31日付テヘラン・タイムズ紙)

(1) アフマド・タヴァッコリー議員(大統領批判派)は、本法案の投票前に、第5次五カ年計画と補助金合理化の間にある矛盾が(政府)案の最大の問題であると述べた。

(2) ナスロラー・キャマーリヤーン国会開発委員会メンバーもまた、「本計画は、不明瞭な状態で始まり、不明確な目的に向かって進んでいる」と批判し、第4次五カ年計画の主要な部分が政府によって実践されていないと遺憾の意を表した。